



このプレスリリースには日本国内において未承認の薬剤に関する情報を含んでいます。

報道関係各位

2022年2月21日
ジェンマブ株式会社

ジェンマブ

日本臨床腫瘍学会で複数のパイプラインを評価する9演題を発表

— 血液腫瘍、固形がんにおいて確かな存在感を示す —

がん領域において革新的な抗体医薬品の創出に取り組むグローバルバイオテクノロジー企業 Genmab A/S の日本法人であるジェンマブ株式会社（本社 東京都港区、代表取締役社長 高木実加）は、2月17日から19日まで京都で開催された第19回日本臨床腫瘍学会学術集会において、当社のパイプラインの複数の治験薬に関する9つの演題が採択され、8つのプレゼンテーションと1つのポスターセッションで発表しました。

本発表では、ジェンマブが持つ抗体テクノロジープラットフォーム DuoBody[®]を応用した二重特異性抗体の epcoritamab (DuoBody[®]-CD3xCD20) を、再発・難治性の濾胞性リンパ腫、再発・難治性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫、および再発・難治性の慢性リンパ性白血病の患者さんを対象に、さまざまな併用療法または単剤療法で評価した第1/2相臨床試験に関して3つの口頭発表と1つのポスターセッションで紹介しました。

また、固形がんにおいては、抗体薬物複合体の技術を応用して作られた tisotumab vedotin の日本人の再発・転移性子宮頸がん患者を対象とした第1/2相 innovaTV 206 試験結果をはじめ、DuoBody[®]-PD-L1x4-1BB (GEN1046) および DuoBody[®]-CD40x4-1BB (GEN1042) の2つのファースト・イン・ヒューマン試験の第1/2相試験結果を含む5つが口頭発表されました。

ジェンマブの抗体に関する深い知識と専門性、そして抗体治療を進化させるための絶え間ない努力が、当社独自の抗体技術とその技術を応用した抗体を生み出しています。当社は日本のがん患者さんにとって、新たな治療選択肢となる抗体医薬品の研究開発をさらに進めてまいります。



第 19 回日本臨床腫瘍学会学術集会で採択されたジェンマブの 9 つの演題は以下の通り。

血液腫瘍	Subcutaneous Epcoritamab + R-CHOP in Previously Untreated High-Risk DLBCL: Preliminary Results From a Phase 1/2 Trial <i>David Belada (4th Department of Internal Medicine-Hematology, University Hospital and Faculty of Medicine, Hradec Kralove, Czech Republic)</i>
	Phase 3 Trial (EPCORE DLBCL-1) of Epcoritamab vs Standard of Care in Relapsed/Refractory Diffuse Large B-Cell Lymphoma <i>Christopher P. Fox (Nottingham University Hospitals NHS Trust UK, Nottingham, UK)</i>
	Subcutaneous Epcoritamab+R2 in Relapsed/Refractory Follicular Lymphoma: Preliminary Results From a Phase 1/2 Trial <i>Kim M. Linton (The Christie NHS Foundation Trust and Manchester Cancer Research Centre, Manchester, UK)</i>
	Subcutaneous Epcoritamab in Relapsed/Refractory Chronic Lymphocytic Leukemia: Preliminary Results From EPCORE CLL-1 <i>Anthony Mato (Memorial Sloan Kettering Cancer Center, Chronic Lymphocytic Leukemia Program, New York, NY, USA)</i>
	固形がん
Tisotumab Vedotin in Japanese Patients With Recurrent or Metastatic Cervical Cancer: Results From the innovaTV 206 Study 米盛 勸 (国立がん研究センター中央病院)	
Real-World Treatment Patterns among Metastatic Cervical Cancer Patients in Japan 安藤 博司 (ジェンマブ株式会社)	
First-in-Human DuoBody®-CD40x4-1BB (GEN1042) Trial: Safety and Initial Clinical Activity in Advanced Solid Tumors <i>Melissa Johnson (Sarah Cannon Research Institute, Nashville, TN, USA)</i>	
Peripheral and Tumoral Immune Activity in the Expansion Part of the First-in-Human DuoBody®-PD-L1x4-1BB (GEN1046) Trial <i>Santiago Ponce Aix (Hospital Universitario 12 de Octubre, Madrid, Spain)</i>	
Dose Selection for DuoBody®-PD-L1x4-1BB (GEN1046) Using a Semi-mechanistic PK/PD Model Based on Preclinical/Clinical Data <i>Gaurav Bajaj (Genmab, Princeton, NJ, USA)</i>	

ジェンマブ株式会社について

ジェンマブは、デンマークに本社を置く、グローバルに展開するバイオ医薬品企業です。がんと向き合う患者さんの人生をより豊かにすることを使命とし、ジェンマブ抗体技術プラットフォームを用いて生み出された抗体医薬品ダラツムマブ (daratumumab)、オフアツムマブ (ofatumumab)、teprotumumab、amivantamab、tisotumab vedotin は、パートナー企業を通じて世界中の患者さんのがんと生きる日々の力となっています。



当社はこれまでの創薬・研究開発に特化したビジネスモデルから、自社開発・自社販売を行う企業として、日本においては 2019 年に日本法人を設立しました。「その人の“生きる”のそばに」をコーポレートステートメントに、革新的な抗体医薬の技術で、医療従事者の方々と共に、患者さんに寄り添える存在になりたいと願っています。